

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|------------------|--------------|---------|---|-----------------------|
| 1 | 『流転の海』 | | 新潮 P72 | お前に、いろんなことを教えてやる。世の中の表も裏も教えてやる。それを教えてから、わしは死ぬんじや。世の中にはいろんな人間がおるぞ。こっちがええときは、大将やの社長やのと言いよるが、悪うなると掌を返しよるやつもおる。日頃はそうでもなかったのに、困ったことがあるとそっと助けてくれるやつもおる。人の心はわからんもんやが、わしはお前に、人間を見る目を持たせてやるけん。人の心がわかる人になれ。人の苦しみのわかる人間になれ。人を裏切るようなことはしちやあいけんぞ。だまされても、だましちやいけんぞ。この世は不思議ぞ。なんやらわからんが、不思議ぞ。他人にしたことは、いつか必ず自分に返ってくるんじや。ええことも、悪いことも、みんな自分に返ってくるんじや。そりやあ恐ろしいくらい見事になア……。 | |
| 2 | 『流転の海』 | | 新潮 P309 | しかしのお、辻堂。星廻りとケンカをしてこそ、ほんまの人生やとは言えんかのお。 | |
| 3 | 『地の星』 『花の回廊』 | P183 P353 | 新潮 P210 | 何がどうなろうと、たいしたことはありやあせん。 なにがどうなろうと、たいしたことはありやあせん。 | |
| 4 | 『血脈の火』 | P144 | | ひとつのことが満足にできんやつは、他の何をさしても半人前以下やということになるんじや。 | |
| 5 | 『血脈の火』 | P147 | | 自分のいやなことや、嫌いなことも、頑張つてやってみたら、案外、好きになったりするもんや。 いやなことをいやがってたら、人間は、社会で生きていかれへん。 | |
| 6 | 『血脈の火』 | P254 | | 根本的なところで優しければ、異質なものは異質として、包み込んであげることができるはずだ。 | |
| 7 | 『天の夜曲』 『満月の道』 | P50 P157 | | 自分の自尊心よりも大切なものを持って生きにやあいけん。 | |
| 8 | 『天の夜曲』 | P60 | 新潮 P77 | 人間ちゆうもんがこの地球にあらわれて以来、死なんかった人間は、ひとりもおらんのじや。 | |
| 9 | 『花の回廊』 | P209 | | 人間のなかでも、なかなか上等の部類の人間じやと親は思うちよる。 | 親として、いつまでも抱いていたい言葉です。 |
| 10 | 『花の回廊』 | P315 | | 物事に起滅あり、森羅万象に因果あり、じや。 | |
| 11 | 『青が散る』 | | 文春 P82 | 盛り場の孤独にたたずみ 人間の駱駝がいきっていく 夢も恋も嫉妬と化すから 心の瘤に隠して歩いていく 原色の生命を曳きずり 駱駝はあてどなく地下に還る 生きていただけの人間の駱駝 | |
| 12 | 『青が散る』 | | 文春 P96 | 取ったり取られたりしながら、たんたん積み重ねるしかないのだった。営々と、近づいて行くしかないのだった。 | |
| 13 | 『青が散る』 | | 文春 P162 | 人間は、自分の命が、いちばん大切よ。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|----------|------|----------------------------------|---|---|
| 14 | 『青が散る』 | | 文春 P343 | 練習したからだ。ひたすらサーブの練習をしてきたから、自分で知らぬうちに、あんなサーブを打てるようになっていたのだ。 | |
| 15 | 『青が散る』 | | 文春 P350 | 王道と書いて下さい。王の道です。 | |
| 16 | 『青が散る』 | | 文春 P376-377 | 「きょ年の十一月に、六甲の駅で、燎平私に訊いたでしょう？夏子は男の人を知っているの。私、正真正銘の処女よって答えたの覚えてる？」燎平は棧橋に坐って、海に足をひたしたまま、傍らに立っている夏子を見あげた。 「でも、いまは違う。もう何遍も何遍も、田岡さんに抱かれたわ。真っ裸にされて、何遍も何遍も田岡さんに」 | 志摩プラザホテル前の入り江での燎平と夏子の会話が、私にとつての「青が散る」の全てと言っても過言ではありません。私なら、こんなに残酷な言葉を浴びせられたら、そのまま海に飛び込んでしまうかも。読む度に心が震えます。 |
| 17 | 『青が散る』 | | 文春 P379 | 若者は自由でなくてはいけませんが、もうひとつ潔癖でなくてはいけません。自由と潔癖こそ、青春の特権ではないか。 | 英文学の辰巳圭之助教授の声として燎平が聞いた言葉です |
| 18 | 『青が散る』 | | 文春 P389 上下に分かれたものは下巻 P190 | スポーツでもいい、何でもいい。学生のいろんな活躍が、大学の歴史を作っていくんだから。 | 学長が燎平にかけた言葉。 |
| 19 | 『青が散る』 | | 文春 P429-430 上下に分かれたものは下巻 P258 | この世は怖い。人生は大きい。この三日間でつくづく俺はそう思った。人間は死ぬよ。哀しむべきことやない。ただ、人が死ぬということは寂しい。そやから人生は、やっぱり寂しいもんなんや。しかし、俺は生きて生きて生き抜くぞ。乞食になり果てても、気が狂うても、俺は生き抜くぞ。そうやって必ず自分の山を登ってみせる。 | 安斉の葬儀の日、ホテルのロビーで、事業が破綻し追いつめられた氏家陽介が、燎平に言った言葉です。打ち拉がれた燎平を前を向こうという気にさせ手のは、氏家が燎平に持たせたヤケ酒代の2万円だけでは無かったようです。 |
| 20 | 『青が散る』 | | 文春 P468 | 何も喪わなかったということが、そのとき燎平を哀しくさせていた。何も喪わなかったということはじつは、数多くのかけがえのないものを喪ったのと同じではないだろうか。 | |
| 21 | 『朝の歓び』上巻 | P286 | 講談社 P316 | 夫婦は、そのことに気づいて、自分たちがパオロという息子にしてやれることは、いかなる状況にあっても、笑顔で、明るく、陽気に接することだと決め、そのように努め、やがてその努力が、彼等に本来的な楽天性をもたらし、何もかもを突き抜けたような、真に幸福でありつづける人のような、陽気な笑顔の持ち主にしたのだ。 | どんな時も明るく振る舞うことは、実際なかなか大変で強い意志の力を必要としますが、心がけていくことで、たくましい樂觀主義を獲得して行けたらと思っている。 |
| 22 | 『朝の歓び』下巻 | P128 | 講談社 P145 | 明るく振舞えて、感謝する心を忘れない人間は、きっと勝つだろうな。いつか、地獄でのたうつような事態が生じて、その地獄のなかで勝つ。そんな気がするよ。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|-----------------------|------|-----------------|---|---------------------------------------|
| 23 | 『朝の歓び』下巻 | | 講談社 P205～206 | 時は、なぜ多くの問題を解決するのだろうか。ただ単に、過ぎていく時間によって、物事が好転したり、忘却を生じさせたり、人間を成長させるのではない。時を経ることは、時を待ち、自ら、時を作り、自分のなかで、浄化や慈愛や心の転換がなされて、それによって、何かが自分のなかに醸成され、その醸成された心の力が、すべてを解決していくのだ。私はそう考えるようになりました。 <u>一心の力が、すべてを変えていく。</u> | |
| 24 | 『朝の歓び』下巻 | P229 | 講談社 P261 | 地球に、朝と夜があるみたいに、私たち人間にも朝と夜があるんだなあって、ポジターノで考えたんです。 | |
| 25 | 『朝の歓び』下巻 | | 講談社 P263～264 | 苦も楽も、全部ひっくるめて、生きてるんだから、何事につけて、明るく振る舞うほうがいいよな。病気の問屋みたいで、貧乏のどん底ばかりってのは、困るけど、それでも、生きてること自体が、不思議で神秘的で、貴重なんだっていう、さつきの意見は正しいよ。 | |
| 26 | 『命の器』 父がくれたもの | | 講談社 P18 | 私を溺愛し、どんな人間でもいい、ただ大きくなって欲しいと念じつづけてくれた人がこの世にあったということ、筆舌に尽くしがたい感謝の念で思い起こすのである。 | |
| 27 | 『命の器』 命の器 | | 講談社 P61 | どんな人と出会うかは、その人の命の器次第なのだ。 | |
| 28 | 『命の器』 潮音風声 感応ということ | | 講談社 P123 | 人はつねに無意識のうちに感応し合っている。どんな人間をもなめてはいけない。相手はちゃんとこっちの心を知っているのだから。 | 人付き合いが苦手な私が 大切にしている言葉です |
| 29 | 『命の器』 潮音風声 しこみ | | 講談社 P125 | 若いときは、自分の力を信じてやったことが、子供にすぐ結果として出ないと、あせりを持ちました。しかし子供たちはひとりひとりがみな違った生命のリズムを持っています。機の熟し方もそれぞれ違います。酒やワイン作りのように、しこみをしっかりやってじっと時を待てば、やがて発酵し良い酒になります。その待ちが、若いときには出来なかったのです。そして、やたらに子供たちをいじくりまわし、本来、放っておいても出てくる芽を踏みつぶしてしまいました。いまは、子供を信じて、じっと待つことが出来るようになりました。 | ある教師の言葉を紹介し人間教育におけるしこみの大切さをお書きになっています |
| 30 | 『海辺の扉』下巻 | | 角川 P98 | 再会の時、必ずや来たらん。 | 息子を亡くした時、数えきれないほど、今も何かの折につぶやいています。 |
| 31 | 『オレンジの壺』下巻 | | 講談社 P223 | 正義の悪意も、邪義の善意も、いつかは自らを瀆すものだ。 | |
| 32 | 『海岸列車』上巻 | P104 | | 私利私欲を憎め。私利私欲のための権力と、それを為さんとする者たちと闘え。 | |
| 33 | 『海岸列車』上巻 | P189 | 集英社 P247 | 艱難汝を玉にす。 | |
| 34 | 『海岸列車』上巻 | P191 | | 贗物は難解です。その論法から言えば、本物はわかりやすいってことです。この人たちは本物だから、自分たちの専門分野のことを、門外漢にも、わかりやすく話してきかせるでしょう。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|------------------------|------|------------|--|--|
| 35 | 『骸骨ビルの庭』上巻 | | 講談社 P70 | 優れた師を持たない人生には無為な徒労が待っている。なぜなら、絶えず揺れ動く我儘で横着で臆病で傲慢な我が心を師とするしかないからだ。 | |
| 36 | 『骸骨ビルの庭』上巻 | P87～ | 講談社 P97-98 | 「人の振る舞い」というんでしょうか。そうとしか言い様のないたくさんのを教えてくれはりました。(中略) 私にこう言いはったんです。「阿部のパパちゃんへのご恩をたとえ一瞬でも忘れてたら、あなたは生きながら地獄に堕ちますよ」 (中略)「人間が抱く嫉妬のなかで最も暗くて陰湿なのは、対象となる人間の正しさや立派さに対してなの。」 | この小説の中の62歳ひとり暮らしのご婦人の言葉は年を重ねて、自分がそういう言葉を言えるか？と自分を省みました。 |
| 37 | 『骸骨ビルの庭』上巻 | P250 | 講談社 P272 | 「ぼくは高校生のときに、人間は何のために生まれてきたのかってパパちゃんに訊いたことがあんなねん」と言った。即答できるような質問ではないことくらいはわかる年齢に達していたし、明確に答えられるものでもない承知していたが、パパちゃんは即答し、かつ断言したのだ。自分と縁する人たちに喜びや幸福をもたらすために生まれてきたのだ、と。 | |
| 38 | 『骸骨ビルの庭』下巻 『真夜中の手紙』 | P115 | 講談社 P182 | 自分のことを考えての苦労やから、苦労とを感じるんやないのか？ | 子供達を預かる事に限界を感じ、施設に引き取ってもらおうと言った阿部徹正に対し、茂木泰造が言った言葉です。私が仕事に関する愚痴めいたコメントをBTCに投稿した時、先生が引用して諭して下さい、新たな世界に踏み出す勇気を与えてくれた大切な言葉です。「真夜中の手紙」にもそのまま記録して頂いており、私にとって大切な宝物となりました。 |
| 39 | 『錦繡』 | | | (書き出しの60文字) 前略 蔵王のダリア園から、ドッコ沼へ登るゴンドラ・リフトの中で、まさかあなたと再会するなんて、本当に想像すら出来ないことでした。 | あの書き出しほど「この先を読みたい」とおもわせるものはない。 |
| 40 | 『錦繡』 | | 新潮 P68-69 | 生きていることと、死んでいることとは、もしかしたら同じことかもしれへん。そんな大きな不思議なものをモーツァルトの優しい音楽が表現してるような気がしましたの。 | 旅立ちのお手伝い」の仕事をして、これまでに3000人ちかくの人たちを見送らせていただきましたが、この文章は、自分にとっての人生のテーゼみたいになっています。 |
| 41 | 『錦繡』 | | 新潮 P192 | 過去なんて、もうどうしようもない、過ぎ去った事柄にしかな過ぎません。 | 振り返ってしまいがちなんですが、未来を見て行かなければといつもこの言葉を思いだしています。 |
| 42 | 『月光の東』 | P90 | 中公 P106 | 私は罰があたったのかもしれない。私が若いときに、深い考えもなくやったことは、因果応報という言葉どおり、自分に帰って来たのだ。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|------------------|------|----------|--|------|
| 43 | 『月光の東』 | P103 | 中公 P122 | 私も、あの人のよううしろ姿で、人前を歩けたらいいと思う。あの、決然と踵を返して、上品でありながら、どこかしら強い余韻というものをたずさえているうしろ姿は、いったい何から生まれてくるのだろう。 | |
| 44 | 『月光の東』 | P107 | 中公 P126 | 世の中の風潮が、そうなってるよ。いい意味での中間がいなくなってる。勉強ができるやつと、まるでできないやつ。この国は、その二種類しかいなくなる。いろんな面で、とびきりよくできるやつと、とびきりの馬鹿でどうしようもないやつ。 | |
| 45 | 『月光の東』 | P275 | 中公 P316 | 生きるということは、自分を肯定するところから始まるのかもしれない。(中略)本気でそう思う努力をしているうちに、本当に自分のすべてを大好きになり、何があっても安心していられるようになりそうな気がする。日本人がどこか卑屈なのは、自分たちを大好きだと思ふ思考が欠落しているからかもしれない。謙譲の美德なんてことを生き方の倫理にする文化のせいかもしれない。 | |
| 46 | 『月光の東』 | P279 | 中公 P320 | 夫が生きていたら得られたかもしれない私の幸福。夫が死んだことによって得られるかもしれない私の幸福。もし、私の幸福にその二種類があるとすれば、後者のほうが較べようもなく大きいという結果が出そうな気さえて、私はずいぶん長いこと物思いにひたった。 | |
| 47 | 『月光の東』 | P290 | 中公 P333 | いまの教師は、社会性というものが欠落してますね。(中略)自分にとって煩わしい生徒は排除していくんです。 | |
| 48 | 『月光の東』 | P335 | 中公 P384 | 罪悪感ほど心身を傷めるものはありません。 | |
| 49 | 『月光の東』 | P381 | 中公 P435 | 過去は、きみのうしろをついて来る骸骨にすぎない。ときどき話し掛けてくるが、放っておけばいい、って。 | |
| 50 | 『月光の東』 | P429 | 中公 P490 | 俺は「言わないと約束したことは言わない」、「言うてはいけないことは決して言わない」ということを学んだのだ。 | |
| 51 | 『ここに地終わり海はじまる』上巻 | | 講談社 P199 | 冬というものが存在しなければ、春というものはやってこない。植物も、厳しい冬の時代に、どれだけ地中に根を張って、どれだけ養分を吸収し蓄えたかで、春になったときの花の咲かせ方が変わってくる。これは自然の法則だ。人間も、自然の法則のなかで生きてるんだから、人間もまたそうであるはずだ。 | |
| 52 | 『五千回の生死』 | | 新潮 P110 | 優しくなったらいいんだよ。優しく、優しく、人間がみんな、やさしくなったら、それでいいんだ。そうなったら、世の中の難しい問題なんて、みんな解決するぜ | |
| 53 | 『三十光年の星たち』上巻 | | 新潮 P112 | 現代人には二つのタイプがある。見えるものしか見ないタイプと、見えないものを見ようと努力するタイプだ。きみは後者だ。現場が発しているかすかな情報から見えない全体を読み取りなさい。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|------------------|------|----------------------------------|--|--------------------------------------|
| 54 | 『三十光年の星たち』 上巻 | | 新潮 P195-196 | いやな思い出が、あれはあれでよかったんだ、いい方向へに行くために、あのときはひとときの不運に見舞われたんだ、あの不運や不幸は、のちの大きな幸福のためにあったんだって、はっきりとわかってくるんだ。 | |
| 55 | 『三十光年の星たち』 上巻 | | 新潮 P219-220 | 「叱られつづける」という時を与えてくれたのだ。 | |
| 56 | 『三十光年の星たち』 上巻 | | 新潮 P268 | 自分なりにという壁をこえるんだ。きみは世の中に出てからずっと自分なりにしか頑張っただけでなかったんだ。 | |
| 57 | 『三十光年の星たち』 下巻 | | 新潮 P17 | 自分で考えて、ああ、そうかと思いついたことしか、現場では役に立ちませんねん。 自分で考えてつかんだもの。自分で体験して学んだもの。それ以外は現場では役に立たない。 | |
| 58 | 『三十光年の星たち』 下巻 | | 新潮 P62 | 正直で潔癖な青年は山ほどいる。磨かなければ原石のままだ。 | |
| 59 | 『三十光年の星たち』 下巻 | | 新潮 P138 | 焼物の分野だけではなく、世の中のありとあらゆる分野において、勝負を決するのは、人間としての深さ、強さ、大きさだ。鍛えられた本物の人物になるには三十年かかる。 | |
| 60 | 『三十光年の星たち』 下巻 | | 新潮 P139 | そうやって考えつづけて、あるときふっと、ああそうなのかと自分で気づいたこと以外は何の役にもたたないのだ。 | |
| 61 | 『三十光年の星たち』 下巻 | | 新潮 P315 | いいか、仁志、お前は犬小屋を造ろうとしてるんじゃないんだぞ。大きな立派な城を建てようとしてるんだ。犬小屋なら半日もあればできるが、大きな城の完成には四年も五年もかかる。 | 春秋に富む若者たちに、是非とも読んで欲しい作品です |
| 62 | 『三千枚の金貨』上巻 | | 光文社 P240 | あいつらは風の吹いて来るほうを向くんや。 | |
| 63 | 『三千枚の金貨』上巻 | P223 | 光文社 P268 | 立ち向かうか、退くか。ほんとうにそうだなア。何か事が起こったら、そのふたつにひとつしかないよなア。よし、立ち向かうぞって決めた瞬間に、勝負はついたんだよなア。退いたら永遠に負けつづける。人生万般、あるゆることに通じる法則かもしれないな。 | |
| 64 | 『彗星物語』 下巻 | P113 | 角川 P119 文春 (一冊のもの) P311 | 「さあ、これからやぞオ」(中略)「やれやれ、勝てそうだ」という局面を迎えると、人は安心して悪手を指してしまう。どんなに優勢のときも、どんなに劣勢のときも、終盤に入って、やっと、「さあ、これからだ」と頑張らなければ、勝負には勝てない… | |
| 65 | 『草原の椅子』上巻 | | 幻冬舎 P62 新潮 P70 | 人情のかけらもないものは、どんなに理屈が通っても正義やおまへん.. | 仕事や人間関係でどうしてよいか分からなくなった時この言葉を思い出します。 |
| 66 | 『草原の椅子』 上巻 | | 幻冬舎 P114 | 人間も組織も、生命力が弱くなると、見栄とか虚栄心とか体面とかにこだわるようになる。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|---------------|------|---------------------|---|------|
| 67 | 『草原の椅子』 上巻 | | 幻冬舎 P195 | 強気でなければできない退却というものもあるのだ。強気にならなければ掲げられない白旗があるのだ。 | |
| 68 | 『草原の椅子』 上巻 | | 幻冬舎 P329 | やると決めたことは、倦まず弛まずやりつづける。たとえ進み方がカタツムリよりも遅いほどであろうとも、生きているかぎりやめようとはしない。目くらを立てることもなく、鼻息を荒くすることもなく、決意を声高に語ることもないが、やると決めたことを途中でやめたりはしない……。 | |
| 69 | 『草原の椅子』 下巻 | | 幻冬舎 P29 | 我々、日本人は、いつのまにか、畏敬の念というものを失ってしまったような気がする。あらゆるものに対して、畏敬の念を忘れた。この自分もそうかもしれない。死の砂漠に立って、果てしない風紋を見れば、あらゆるものに対する畏敬の念が甦るだろう。 | |
| 70 | 『草原の椅子』下巻 | | 幻冬舎 P78 | 怖がって生きるのも一生。安心して生きるのも一生。少々、何があろうとも、安心しているという修養を、自分もまた努力して己に課さなければならないと憲太郎は思った。安心しているということは、能天気にお断しているというのではまったく違う。物事にかしこく対処し、注意をはらい、生きることに努力しながら、しかも根底では安心している……。そういう人間であろうと絶えず己に言い聞かせることだ……。 | |
| 71 | 『草原の椅子』下巻 | | 幻冬舎 P133 新潮 P139 | どこで生まれて、どんな学校を出て、どんな仕事をしているかなんて、どうでもいい。つきあううちに、そのようなことは自ずとわかっていく。大切なのは、その人間の品性や心根であって、これだけは偽りがきかない。 | |
| 72 | 『草原の椅子』下巻 | | 幻冬舎 P137 | 世の中がいかに汚れようと、いかにすさもうと、いかに衰退しようと、心根がきれいな人間がいるかぎり、いつか歪みは正され、失望は希望へと一転する。心根というものが大切なのだ。 | |
| 73 | 『草原の椅子』下巻 | | 幻冬舎 P193 | 子供は、可愛がられて育たなければならない。それは、野放しに好き勝手に振る舞わせることではない。何が悪で、何が正義かは、厳然と教えなければならない。 | |
| 74 | 『草原の椅子』 下巻 | | 幻冬舎 P245 新潮 P255 | 人生の大事に対して、結局は感情で対処した人間は、所詮、それだけの人間でしかないんや。 | |
| 75 | 『草原の椅子』 下巻 | | 幻冬舎 P261 | 俺には宇宙と同じ力があるのだ……。 (中略) 何が起ころうが、それがどうしたというのだ。 俺は、生き、働き、人間を尊敬し、生きとしけるものを愛しみ、正しい振る舞いをこころがけて、与えられた寿命を生きつづけるのだと思ったのだ。すると、怖いものなんか失くなってしまった。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|-------------------|-------|----------------------|--|------------------------------------|
| 76 | 『草原の椅子』 下巻 | | 幻冬舎 P295 | そのとき、ぼくは自分が部下を叱れる立場になったら、絶対に人前で叱らないようにしようって決めたんです。相手が自分の非を自覚して、しかもそれを認めて、ああ、しまったって反省してるときに、人前で恥をかかせちゃいけないんです。 | |
| 77 | 『草原の椅子』 下巻 | | 幻冬舎 P312 | どっちの道に行くかの選択が正しかったかどうかは、もはやわからない。けれども、自分が迷いながらも、さまようように歩いて来た道は、自分が作ったのだ。そして、それは振り返ると、ところどころ踏み外した跡はあっても光っている……。 | |
| 78 | 『草原の椅子』下巻 | | 幻冬舎 P326 | 今日は生きるのもってこいの日だ。 | |
| 79 | 『草原の椅子』下巻 | | 幻冬舎 P400 幻冬舎 P401 | 正しいやり方を繰り返さない。 物事には、正しいやり方と、そうでないやり方とがある。正しいやり方をひたすら繰り返していれば、いつかそれが自然のうちにできるようになっていく。 | 誠実性、公平性が求められる仕事の神髄と思い、大切にしている言葉です。 |
| 80 | 『田園発港行き自転車』 上巻 | P7 | | 私は自分のふるさとが好きだ。ふるさととは私の誇りだ。何の取り柄もない二十歳の女の私が自慢できることといえば、あんなに美しいふるさとで生まれ育ったということだけなのだ。私はいちにちに一回は、心のなかで富山湾を背にして黒部川の上流に向かって立ち、深い渓谷がそこで終わって扇状の豊かな田園地帯が始まるところに架けられた愛本橋の赤いアーチを思い描く。 | |
| 81 | 『田園発港行き自転車』 上巻 | P9-10 | | 私の自慢のひとつは、この湧水のおいしさと豊富さだが、もうひとつ誇れるものがある。黒部川の川べりには、ゴミひとつ落ちていないということだ。煙草の吸い殻、スナック菓子の袋、インスタント食品の空容器、食べ残した弁当、新聞や雑誌類……。そんなものを川べりで目にしたことは、私はいちどもない。嘘だと思ふなら、ぜひ私のふるさとに来てくれ。近在の人たちが定期的に清掃しているのではない。川べりに物を捨てないようにと呼びかけているのでもない。黒部川の川べりにゴミを捨てる人がいないのだ。(中略)ぜひ、私のふるさとに来てくれ。 | |
| 82 | 『田園発港行き自転車』 上巻 | P25 | | お前は中和剤になって落とし所を見つけるまでは帰らないと決めて行ってくれ。どこを落とし所にするかはお前にまかせる。渡辺さんのメンツも立つという落とし所だ。 | |
| 83 | 『田園発港行き自転車』 上巻 | P92 | | どんなに親しくても、相手が人に話したがっていないであろうことには、決してこちらから水を向けてはいけない。 | 真帆が父直樹に言われた言葉です。常に心に留めておきたいお言葉です。 |
| 84 | 『田園発港行き自転車』 上巻 | P110 | | なんだ、それだけなの？でも、お雑煮が味噌仕立てか、醤油だし、すまし仕立てか、日本ではその違いは大きいよね。 その違いで、生活様式も習慣も、そこで暮らす人たちの思考形態までもが微妙に異なっていて、その微妙な、言葉では明確に説明できない違いが、大きな摩擦を生んでいく、って何かの本で読んだわ。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|----|---------------|----------|------|---|---|
| 85 | 『田園発港行き自転車』上巻 | P165 | | 「野に遺賢あり、やなア」とつぶやき、多美子は自転車にまたがった。 | 初老の婦人が「流水客主」について話した後のタミーの言葉。本来は【野に遺賢無し(やにいけんなし)】民間に埋もれている賢人はいない。すぐれた人物が登用されて政治を行い、国家が安定しているさまをいう。それを、「野に遺賢あり」と、タミーに言わせたところがすごいと思いまし |
| 86 | 『田園発港行き自転車』上巻 | P237 | | かがわまほせんせい、こんにちは。ぼくは、なつめゆうきです。ようちえんです。5さいです。ぼくは、かがわまほせんせいのえがだいすきです。やさしいおうちがだいすきです。ぼくのことすきですか。かがわまほせんせい、ぼくのことをすきになってくださいね。 | |
| 87 | 『田園発港行き自転車』上巻 | P351 | | サンキュー・レターってのはなア、すぐに書いてポストに入れなきゃあ駄目なんだ。あとまわしにしてると、だんだん日が過ぎていって、そのうちお礼の気持も薄まっていって、やっと書いて送ったときには、気が抜けたビールみたいになってる。いいか、サンキュー・レターは、すぐ書くんだぞ。 | |
| 88 | 『田園発港行き自転車』上巻 | P372 | | みんな語りかけている。にぎやかに歌っている。どれもこれも心があるのだ。私は、その心がどこから生まれたのかを知ったのだ。 | |
| 89 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P30-31 | | 我が家にまとめて押し寄せた嵐を帆に受けて大逆転するのよ。嵐の風を味方にするのよ。 | |
| 90 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P60 | | 「産みたい。産んで育てていきたい」と妻は泣きながら答えた。「よし。俺たちは親としてできる限りのことをしよう。何があっても愚痴は言わないぞ。俺たちのなかからは、落胆と絶望という言葉は消すぞ。いいな、俺たちは産むと決めたんだからな」 | |
| 91 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P81 | | うん、一緒にいる人間を安心させてくれる顔だよ。 | |
| 92 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P156 | | いままでは図鑑を写しただけだ。今夜はそれらを自分の絵にするためのデフォルメに費やそう。でも、次から次へと絵が浮かんできて、図鑑からの模写がまどろこしい。うまく描けるかどうかまだわからないが、私はひどく興奮して、頬が真っ赤に火照っている。私は、竹に譬えれば、ひとつの節を割ったのだ。何が自分らしいかに自分で気づいたのだ。自分らしさに気づくことで世界が広がったのだ。 | 私の憧れの体験です。 |
| 93 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P160 | | 好不調はつねに繰り返しつつけるし、浮き沈みはつきものだが、自分のやるべきことを放棄しなければ、思いもよらなかった大きな褒美が突然やって来る。 | |
| 94 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P197-198 | | 言うべき時を知る人は、黙るべき時を知る。 これはアルキメデスの言葉だが、(中略)余分なものをすべてはぶいた説明がそれを裏づけていた。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|-----|---------------|------|---------|--|---|
| 95 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P232 | | 千利休が、ある人に『当たり前前が、いつでもどこでもできるならば、私があなた方の弟子になりましょう』と言ったそうやけど、その意味がやっとわかったわ。生き物が死ぬということくらい当たり前前ことはないもんねエ。 | |
| 96 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P253 | | もうなるようになれといった、どこか解放感の伴った明るさのようなものが、雪子の身内に湧きあがってきた。 | |
| 97 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P255 | | 雪子にはもうどうでもよかった。自分が人間として好きな人を、この機会に引き合わせたかっただけだと思った。 | |
| 98 | 『田園発港行き自転車』下巻 | P285 | | 「小松は京都の狭い小路の奥の魔窟や」っていうのは、冗談やなかったんですね。私には聖なる家に思えます。 | |
| 99 | 『ドナウの旅人』上巻 | | 新潮 P50 | 冗談てのはねエ、相手が笑って初めて冗談と言えるんだ。 | |
| 100 | 『ドナウの旅人』上巻 | | 新潮 P98 | 賢過ぎる女も、それに愚か過ぎる女も、人生を劇のように生きられないわ。 | |
| 101 | 『ドナウの旅人』上巻 | | 新潮 P161 | 恋人同士であれ、夫婦であれ、友人であれ、いったい誰がいつもいつも相手の求めるものに応じられるだろう。 | |
| 102 | 『ドナウの旅人』上巻 | | 新潮 P181 | この世の中には、「不思議」という言葉を使う以外、いかなる適当な言葉も当てはまらない事柄が無限にある。 | |
| 103 | 『にぎやかな天地』上巻 | | 第一章の冒頭 | 死というものは、生のひとつの形なのだ。この宇宙に死はひとつもない。(中略)それらはことごとく「生」がその現われ方を変えたにすぎない。 | 錦織の生きていることと～に通じる言葉だと思いますが、人間は生物学的には死を迎えるが、精神的な「不死」を迎えることは可能である、との心意気で生き長らえています。『錦織』や『にぎやかな天地』の死生観も、人間教育の「しこみの大切さ」も、宮本文学に底流に滔々と流れる基調ではないかと思うのです。 |
| 104 | 『にぎやかな天地』上巻 | P188 | 中公 P213 | 仕事をするかぎりには、いっさい手抜きをせず、仕事とはかくあるべきだというものを為さなければならぬ。それは報酬とは無関係なのだ。いかに少ない報酬であろうとも、それが自分の仕事であるかぎり、決して手を抜いてはならない。仕事とはそうであらねばならぬ……。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|-----|---------------------|------|----------|---|---|
| 105 | 『にぎやかな天地』 上巻 | P205 | 中公 P231 | 勇気は、自分のなかから力づくで、えいや！と引きずり出す以外には、出しようがないねん。 それ以外に、どんな方法もないねん。勇気を出そうと決めて、なにくそ、と自分に言い聞かせて、無理矢理、自分の心のなかから絞り出したら、どんなに弱い人間のなかからでも、勇気は出て来るねん。 | |
| 106 | 『にぎやかな天地』 上巻 | P297 | 中公 P332 | 時間をかけて作られたもの、手間暇を惜しまず作られたもの。そういうものはこれからますます見直されていくであろう。そのようなことを知ってる家庭で育った子は、舌そのものが、大量に作られたいかがわしいものに気づくようになる……。 | |
| 107 | 『にぎやかな天地』 上巻 | | 中公 P365 | わかりにくいことを言うやつちゅうのは、結局は偽者やねん。無から有を生みだす仕事をしてる人間は、まわりくどい思考をしてる暇がないんや。具体的で普遍的なことしか役に立たんちゅうことを知ってるからや | 登場人物 料理研究家 丸山澄男の言った言葉。読み始めは お笑い芸人と渡り合える位のイケイケな芸能人気取りでしかも女癖も悪いというあまり良くないイメージでしたが、本を読み進めるうちにどんどん印象が変わってくる人間味溢れる人物でした。 |
| 108 | 『にぎやかな天地』 上巻 | P326 | 中公 P365 | 自分の仕事に、うしろめたさがないんや。そやから、仕事に関しては、いつでも堂々としてられる。 | |
| 109 | 『にぎやかな天地』下巻 | | 中公 P302 | 心は巧みなる絵師の如し。 | |
| 110 | 『二十歳の火影』 | | 講談社 P164 | 「文学にとって、最も重要なテーマとは何でしょうか？」(中略)私はいささかうろたえながら答えた。「人間にとって、しあわせとは何か、ということではないでしょうか。」 | 初めて読んだのは 確か30歳でした。難しい哲学のような表現を理解することはできませんでしたが、今50歳を超えて少しだけわかりかけてきているような気がします。 |
| 111 | 『花の降る午後』 | P18 | 講談社 P23 | 人間には二種類ある。辛くて寂しくて哀しいことは、いつまでもつづかない。必ず終わるときが来る。その終わったときに、弱くなるか強くなるかの二種類だよ。 | |
| 112 | 『花の降る午後』 | P21 | 講談社 P27 | 努力っていうのは、もうそれだけで力だよ。 | |
| 113 | 『避暑地の猫』 | | 講談社 P107 | 秘術を汲み出せると信じて礼拝していた曼陀羅が、ただの落書と何の変わりもない贗物だったとしても、それを拝んだ人の生命は、その曼陀羅と同化する。 | 修平一家に起こったことを思うにつけ、とても恐ろしいことやと思いました。 |
| 114 | 『ひとたびはポプラに 臥す』1巻 | | 講談社 P7-8 | [旅の始まりに] 日本の殺伐としたシステムと生活にあって、私たちは多くのものを失いつづけているが、「静かに深く考える時間、静かに深く感じる時間」の喪失は極めて重要な問題だと思う。 | この本は子育て中のバイブルでした。 |
| 115 | 『ひとたびはポプラに 臥す』1巻 | | 講談社 P111 | この世界は虚偽に満ちています。私利私欲の海のようなです。政治の虚偽による災厄を政治家が責任をとったことは一度もありませんでした | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|-----|-----------------|--------|--------------|--|--|
| 116 | 『ひとたびはポプラに臥す』1巻 | | 講談社 P149 | <待つ>。<待ってあげる>。胆力のない現代には、そんなことすらできない。 | |
| 117 | 『ひとたびはポプラに臥す』1巻 | | 講談社 P215 | 宇宙が無限であるならば、この俺という人間も無限なのだ、だから俺に行き詰まりはないのだと思えてきて、元気が出てくるのです。 | |
| 118 | 『ひとたびはポプラに臥す』2巻 | P25-26 | 講談社 P27 | 張掖に、わずかに昔日のおもかげが残っているとすれば、それは<歴史>というものの気配によってかもしだされる落ち着きのようなものであろう。 | |
| 119 | 『ひとたびはポプラに臥す』2巻 | P144 | 講談社 P146 | 空はない、天だけだと思ってたけど、とんでもない、ここには天もないな。 | |
| 120 | 『ひとたびはポプラに臥す』2巻 | P213 | 講談社 P214 | 天道って何なんやろうなァ。二十年や三十年の単位では、天道のなんたるかは見えないっちゆうことかなァ……。 | |
| 121 | 『ひとたびはポプラに臥す』3巻 | | 講談社 P58 | そのロバ車に乗ったウイグル人の家族たちを見ていると、三好達治の詩が思い浮かんだ。 — 静かな眼 平和な心 その外に何の宝が世にあらう。 | |
| 122 | 『ひとたびはポプラに臥す』3巻 | | 講談社 P186-190 | 後藤さんが二十七歳で医学部の入試に失敗した年、私も作家をころざして会社を辞め、借家の四畳半の部屋に閉じこもって小説を書いていた。ある日、家の近くで後藤さんと出逢った。 (中略)「俺もアホやて言われたけど、もっとアホがおったなァ。まだ俺のほうがましや。俺よりアホが近くにおると思うと、気がらくになってきた」と言い、自分の家へと帰って行った。(中略) 私は「他の人のために灯をともせば、我が前もまたあきらかなるが如し」という言葉を思った。 (中略)ささやかな灯ではあったが、私と後藤さんは、たしかにあのとき、お互いの行く手に灯をともしたのだ。 | 筆者のホームドクターの後藤氏は、阪大大学院で博士号も取得し、大企業への就職も決まっていたのに、27歳で阪大医学部を受験し浪人。筆者も同じ頃、作家を志し、妻子も居るのに、会社を辞め、家に籠もって小説を書いていた。28歳の頃、強度のノイローゼで発狂の恐怖の中にあっただ。5、6年後、二人が再会した時には、宮本氏は既に芥川賞・太宰治賞を受賞していた。 |
| 123 | 『ひとたびはポプラに臥す』4巻 | | 講談社 P216 | 焼け野原となった日本を実質的に統治したマッカーサーが極めて重要視したのは、「日本人に道徳教育を与えない」という一点であったのだと、その人は教えてくれたのだ。それが何を目的としていたのかは、明らかである。 | |
| 124 | 『ひとたびはポプラに臥す』5巻 | | 講談社 P37 | 「俺は、お前には、何か人よりも秀でたものがあると思ってきた。普通の人ができない何かの才能を持っていそうな気がした。なぜかわからないが、そんな気がしつづけて、お前に過剰な期待を寄せた。しかし、それはどうも親の欲目というやつだったようだ。お前には何もなかった。それなのに、過剰な期待を寄せられて、お前はさぞかし重荷だったことだろう。申し訳なかった。お前にそんな期待をした俺を許してくれ」父は亡くなる三カ月ほど前に、私にそう言って頭を下げた。私は二十歳だった。その夜、私は雨のなかを泣きながら歩いた。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|-----|---------------------|------|-----------------|--|------|
| 125 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P50 | 十九世紀末から二十世紀のはざまに登場したハンガリーの詩人、アディ・エンドレは、「ひとり海辺で」という詩でこう歌っている。 海辺、たそがれ、ホテルの小部屋 あの人は行ってしまった もう会うことはない あの人は行ってしまった もう会うことはない (徳永康元・池田雅之訳) | |
| 126 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P58 | 人間、やれやれと思ったときが危ない。魔は天界に住むという言葉があるからね。 | |
| 127 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P102 | はじらいながらも毅然と挨拶をして、それから歌ったウェイウェイに、私は「気位」というものを感じた。 | |
| 128 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P106 | 人間は自分に甘く、他人に厳しいという、いかんともしがたい業を持った生き物なので、自分もあの人も、欠点だらけの弱い人間だという共通認識に立てないだけにすぎない。 | |
| 129 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P118 | 自分は、どこへ行くのだろうかという不思議なせつなさが、長く長くつづいた。 | |
| 130 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P172-173 | ロシアの作家、アントン・パーヴロヴィッチ・チェーホフが死ぬ少し前に、かつての恋人に送った手紙の一節が胸に沁み入って来た。—ごきげんよう。なによりも、快活でいらっしやるように。人生をあまりむずかしく考えてはいけません。おそらくほんとうはもっとずっと簡単なものなのでしょうから。— | |
| 131 | 『ひとたびはポプラに 臥す』5巻 | | 講談社 P236 | 俺にはできない、俺には無理だ。(中略)実際に小説を書く苦勞よりも、そのような恐怖を乗り越えることのほうがはるかに大きな闘いを必要とした。(中略)五行書き、十行書き、二十行書きしているうちに、私の恐怖心は消えていったのだ。『書く』という行為が『書くという恐怖』を消したのだ。 | |
| 132 | 『ひとたびはポプラに 臥す』6巻 | | 講談社 P135 | さまざまな障害や難関や自らの壁に懊惱呻吟しながらも、ひとつの事柄を好きで好きでたまらないということ自体が、才能である。並外れて、あることが好きだということが、すでに才能なのだと思っている。それほどまでに「好き」であることは、もはやその人を成す生命の核のようなどころからほとぼり出る何物かであって、その人だけの快樂と同義である。快樂に向かって突き進もうとする力は、誰も止めることができない。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|-----|------------|------------------|---------|---|------|
| 141 | 『水のかたち』上巻 | P123 p123-124 | | 負けるな、負けるな、あきらめるな。心は巧みなる画師の如し、だ。 心は画師の如し、じゃないのよ。巧みなる、っていう言葉が付くのよ。つまり、心に描いたとおりになっていくってことなのよ。心には、そんな凄い力がある…。だから、不幸なことを思い描いちゃいけない悲しいことを思い描いちゃいけない。不吉なことを思い描いちゃいけない。楽しいこと、嬉しいこと、幸福なことを、つねに心に思い描いてると、いつかそれが現実になる。お伽噺みたいだけど、これは不思議な真実だ…。 | |
| 142 | 『水のかたち』 | P137 | | 人間は生まれた瞬間からその人だけしか彫れない何かを彫りつづけているのかもしれない。 | |
| 143 | 『水のかたち』上巻 | P202-203 | | 鉄と鋼の違いとして 鉄を叩いて鍛えると、いろんな不純物が表に出て来るんですって。それがあいたは、鉄は鋼にはならない。そんな鉄で刀を造っても、ナマクラだ。鋼となった鉄でないとな刀にはならないって。経済苦、病苦、人間関係における苦勞。それが出来たとき、人も鋼になるチャンスが訪れたんだ。それが出来ないと永遠に鉄のままなんだ。(中略)何もかもがうまくいかず、悲嘆に沈む時期も大切だ。だから、人間には、厳しく叱ってくれる師匠が必要なのだ。師匠は厳しく叱ることで、弟子のなかの不純物を叩き出してくれる。 | |
| 144 | 『水のかたち』下巻 | P174 | | 私は水の流れに乗って、それに身をまかせて今日まで来たと思っていたが、そうではないのだ。流れとともにかたちを変えつづける水に沿って生きてきて、今日の自分というものを得たのだ。 | |
| 145 | 『水のかたち』下巻 | P285 | | 夫は決して相手の非を口にしない。こっちで何とかできるものならやりますよと笑って言うだけなのだ。 | |
| 146 | 『水のかたち』下巻 | P285 | | 感謝の言葉をちゃんと伝えなくてはならない。 | |
| 147 | 『水のかたち』下巻 | P290 | | どんなに小さくても、火種があるかぎり、息を吹きかけることをあきらめてはならない。あきらめずにそっと息を吹きかけつづけているうちに、ぼっと炎があがる時が来る。強く吹いたら、かぼそい火種は消えてしまう。あきらめずに、そっと吹きつけることが大切だ…。 | |
| 148 | 『水のかたち』下巻 | P291 | | 自分を、自分以上のものに見せようとはせず、自分以下のものに見せようとしな、というのは至難の業だ。 | |
| 149 | 『森のなかの海』上巻 | | 光文社 P11 | 希美子は、江坂さんは気が狂ったのではないかと思ひ、傍に行つて江坂さんの肩をつかんだが、(中略)私という人間の回路も、さっきのとんでもない揺れで、どこかが寸断されてしまったのであろうか…。 | |

ファンの魂を震わせた 宮本輝作品の名文・名言集

2017/6/15

| No | 作品名 | 単行本頁 | 文庫本頁 | 名文・名言 | コメント |
|-----|---------------|------|----------|---|------------------------------------|
| 150 | 『森のなかの海』上巻 | | 光文社 P16 | 希美子が覚えているのは、被災した人々の、不思議なほどに静謐な表情と動作であった。 | |
| 151 | 『森のなかの海』上巻 | | 光文社 P23 | 家のなかにも、大切なものをたくさん残してきたが、たしかに夫の言葉どおり、命よりも大切なものはありはしない。(中略)けれども、物ではない大切な何かを、自分は、住んでまだ一月ほどの、会社名義の借家に残してきたのではないだろうかと思つた。 | |
| 152 | 『森のなかの海』上巻 | | 光文社 P25 | 希美子の心のなかにあるのは、自分も夫も他所者の顔をして、救いを求めている人々を捨てて逃げたということへの恥ずかしさだった。(中略)人間としての誇りを、あの西宮市T町に捨ててきたのだ……。 | |
| 153 | 『森のなかの海』上巻 | | 光文社 P183 | 畳まれて伸ばされて、畳まれて、伸ばされて……。たった三十回が、なんと二百六兆のうどんの層になる。昔は、人生五十年なんて言って、五十歳が平均寿命みたいならえ方をしてたけど、あれは解釈の間違いかもしれんな。孔子は『五十にして天命を知る』と言ったんだ。五十歳になって、やっと本物の人生が始まるってのが、人生五十年で言葉の本当の意味じゃないのかな。五十歳までは、畳まれて伸ばされて、また畳まれて伸ばされて、豊かな層を自分のなかに作っていく期間でわけだ。二百六兆の層ができるまでには、いろんなことがあるさ | |
| 154 | 『森のなかの海』上巻 | | 光文社 P291 | (イチチャン、ニチャン、サンチャンの面倒をみていた役所係員の横沢のセリフ) あの三人を救出するとき、ぼくも現場にいたんです。三人が生きていたのがわかったとき、ぼくは声をあげて泣きました。自衛隊員の何人かも泣いてました。 | |
| 155 | 『約束の冬』下巻 | | 文春 P316 | 仕事も、恋も、家庭を築くことも、人と人のつきあいも、根本において「道の掟正しく」あれば、きっと多くの何物かを得ていくはずなのだ。 | |
| 156 | 『優駿』下巻 | | 新潮 P43 | 終わりってのは、また始まるためにあるんだって。 | |
| 157 | 『夢見通りの人々』 | | 新潮 P264 | ええ人やなア。里見はん、あんた、そんなええ人やったら、きっと寂しいやろなア。 | |
| 158 | 『私たちが好きだったこと』 | P134 | | 時間も偶然も金では買えない。たしかに与志くんの言う通りさ。でも、命も金では買えない。金では買えないもののために、金が必要なんだ。金ってやつは、金では買えないもののために真価を発揮する | |
| 159 | 『私たちが好きだったこと』 | | 新潮 P225 | シズカニシノゲルトオモウ | 息子を亡くした時、数えきれないほど、今も何かの折につづやいています。 |